

## 京都市全員制中学校給食検討会議 会議録

### 1 日 時

令和5年6月26日（月曜日） 15時～16時半

### 2 場 所

京都市総合教育センター 第3研修室

### 3 出席者（50音順、敬称略）

今川、尾崎、梶浦、國重、塩見、中山、藤下、山崎、山下、米田

### 4 事務局

教育委員会事務局体育健康教育室長、同室担当課長（給食）

### 5 議 題

- (1) 開会あいさつ及び本会議の趣旨説明
- (2) 委員紹介、座長の選出
- (3) 会議の進め方について
- (4) 学校給食の概要及び本市の現状について
- (5) 意見交換（「全員制の中学校給食」に期待することなど）
- (6) 閉会

#### <議題(1) 開会あいさつ及び本会議の趣旨説明>

（教育委員会事務局体育健康教育室長 挨拶）

#### <議題(2) 委員紹介、座長の選出>

（事務局から資料2・3について説明）

委 員 座長については、山下委員を推薦したい。理由は、現在、教育大学で教鞭を取られているが、以前、京都市立中学校長会の会長をされるなど、中学校現場をよく分かっておられる。さらに、小中一貫校では、小学生・中学生を対象に、小学校給食を実際に運営されており、小学校給食にも精通している。

委 員 私も山下委員が座長に相応しいと考えている。

事務局 他に御意見がなければ山下委員にお願いしたいがいかか。

(異議なし)

委員の皆様の互選により、本会議の座長を山下委員とすることが決まったため、今後の進行は、座長の山下委員にお任せする。

座長 座長に推薦いただいたが、1年間よろしくお願ひしたい。

まず初めに、座長に事故があった場合の座長代理については、中山委員にお願ひしたいと思っている。中山委員は、大学の副学長もなされ、このような審議会等を運営する御経験もおありだと思ふ。

異論がなければ中山委員によろしくお願ひしたい。

(異議なし)

### <議題(3) 会議の進め方について>

(事務局から資料5について説明)

### <議題(4) 学校給食の概要及び本市の現状について>

(事務局から資料6について説明)

### <議題(5) 意見交換「全員制の中学校給食」に期待することなど>

(欠席委員の分は事務局から紹介)

委員 京都市のような大きな街で、全員制の中学校給食を実施することは大変な作業で、細部にわたり、すべての条件を整えることは難しいと思ふ。まずは全校実施することを最優先に、施設や人員の確保の面など、現実的な方法でスタートし、実際に運営する中で、試行錯誤しながら良い形に変えていくこともできるのではないか。

何よりも大切にしたいことは、楽しく食べること。そのうえで、実施に当たっては、食文化を活かした献立など、和食を中心とした京都ならではの中学校給食といった視点から、議論していくことも大切だと思ふ。

委員 私の中学生・高校生の子どもたちは、中学校ではお弁当を選択し、毎日作っているが、栄養や献立を考えるのは大変であるため、全員制中学校給食が実施されることは有難い。実施方式などについては、こうなってほしいという理想と施設面や費用面などの現実があると思ふので、多くの方が納得いく形で実施できればと考えている。

委員 中学校現場にいる者としては、選択制中学校給食の導入前は、子どもたちの中に、お弁当を作ってもらえる家庭とそうでない家庭がある等、家庭状況に伴う課題を感じていた。そのような中で、現在の選択制中学校給食が導入されたことはとても意義深いことだった。

現行の選択制中学校給食は小学校にあるような温かい汁物はないが、とてもおいしい。

食は教育活動のベースになるもの。様々なハードルがあると思うが、何より中学生にとって、より良い形で全員制給食が実現されればと願っている。

委員 小学校では、1年生から全員制の給食を食べている。食べることは生きること、食べることは生きていくことにつながると児童には教えている。

また、小学校では、6年生の児童が中学校給食の試食体験学習として、家から弁当箱を持参し、中学校給食を詰め替えて食べる学習を行っている。実際に体験してみると、中学生に必要なカロリーや栄養をとるためには想像以上に量が多いことが分かる。

小学校では食物アレルギーの対応について、細心の注意を払っている。中学校でも全員制給食が実施されれば良いと思うが、食物アレルギー対応を慎重に考えていく必要がある。

委員 この数年はコロナ禍で給食時間は机を離して静かに食べていたため、学校では楽しく食べるということが難しかった。小学校の給食は味噌汁がつくなど、温かくておいしいと子どもたちから評判であり、食材やだしが生きた教材として目の前にあることは素晴らしい。中学校でも、子どもも教職員も給食の良さをしっかり知るように取り組みたい。全員制中学校給食の実施に当たっては、施設整備や給食時間など様々な課題がある。色々な意見を吸い上げながらより良い形で実施できればと考えている。

委員 小学校では、給食を食べながら食感や味に出合い、その場で子どもたちと共有するなど、小学校1年生から担任が食育に関わり、普段の学校生活の中で食育を推進しているため、中学校でも継続できれば良い。

小学生でも熱いものを運ぶときは注意したり、友達のことを思いながら量を調整して配膳したりするなどの配慮ができていますので、中学生でも十分できると期待している。

また、小学校では食物アレルギーや誤食には最大限の注意を払っている。子どもたちが安心安全でおいしく食べられるような中学校給食になってほしい。

委員 小学校では毎日の給食時間に電子黒板上の給食カレンダーに豆知識が載っていたり、和献立の日には動画を見たりするなど、給食を通して様々なことを学んでいる。また、給食時間以外にも学級活動や家

庭科などの関連教科で給食を題材にしている。

小学校で積み上げてきた食育を中学校でも給食を教材として実施されるのは良いことだと考えている。中学校でも全員制給食に移行し、皆で同じ献立を食べるようになれば、給食を教材として扱いやすくなるだろう。

給食の量が中学校で増えるが、選択制中学校給食の試食体験学習ではほとんどの子どもが完食しているため、その点についてはあまり不安はない。

委員 子どもが小学校に進学するに当たって最も不安だったのが給食だったが、温かくておいしい給食を楽しんで食べているようだ。私自身は他県出身で、小・中学校ともに給食センターで作られた給食を食べていたが、小学校と同じ給食だったから中学校に進学しても安心できたように感じている。

今は、共働き世帯が多く、全員制中学校給食は多くの方から歓迎されるだろう。保護者によっては、食材にこだわる方もいれば手早くすぐに食べられるような献立を望む方がいるなど、考え方は様々であるため、より多くの方が納得できるような中学校給食になってほしい。

委員 国民全体でみてもカルシウムの摂取量は基準量よりも少なくなる傾向にあるが、特に中学生はその傾向が顕著である。骨密度は20歳をピークに年齢とともに下がっていくため、いかに20歳までに積み上げることができるかが大切。中学生という成長期に栄養をしっかりととることは重要であり、中学生に必要な栄養が考えられた献立が提供される全員制中学校給食に期待したい。

また、次世代の親となる中学生にとって、食育を通じた心身ともに豊かな人間形成も重要である。全員制中学校給食になれば、全員が同じものを食べるため、家庭科や保健体育など他教科でも生きた教材として使うことができることも全員制の良い点である。

どのクラスにも同じように温かい給食を届けるためには様々な工夫が必要だが、本市の全員制中学校給食を実施するにあたって、色々な工夫が求められることになるだろう。

委員 今回、会議に先立って、子どもたちに話を聞いた。子どもは3人いるが、3人とも1か月間は選択制中学校給食を食べた。味が薄く、冷たいと言っていた。冷たさは給食も弁当も同じだろうと更に聞くと、冷たいゆえに味付けが薄く感じるとのこと。母親の弁当は、冷めてもおいしそうに味付けを濃く作ってくれていると、子どもは敏感に感

じ取っている。

また、小学校のような給食と母親の弁当ならどちらが良いかを聞くと、小学校の給食がおいしいので、絶対給食の方がいいと言っている。

費用面などの課題はあると思うが、子どもたちが喜ぶ給食になることを願っている。

委員 小・中学生全員が同じ給食を食べている小中一貫校で勤務していたが、育ち盛りの中学生にしっかりと栄養が考えられた給食が提供されることは子どもたちだけでなく、親にも有効なのではないか。

とてもおいしい小学校の給食がベースにある中で、どこまで小学校と同じようにできるのか。全員制給食の実施については、これまでも意見があったように、施設面や費用面、教育課程面など乗り越えるべき課題が多くある。今後、業者から各方式のメリット・デメリットが提示されるなど、具体的な内容を検討していくこととなる。各方面から様々なご意見があると思うが、より多くの方が納得し、おいしくて、安全安心で、子どもたちが喜ぶ学校給食を早期実現していただきたい。

座長 たくさんのご意見をいただいたが、今後、全員制給食の実施方式や基本方針等の検討にあたっては、事務局には、できるだけ議論をオープンにしながら、情報共有を図っていただきたい。

<閉会>